

これまでの議論と答申に向けた検討の方向性について
(令和2年11月30日 議会改革検討小委員会資料 (抜粋))

<これまでの議論 (まとめ) >

- 9月定例会で試行したペーパーレス委員会(総警、文教)のアンケート結果からは、ICTのメリットを生かせるよう、早期の導入を希望する議員が多くある一方、慎重な御意見もあり

→ 現時点では、自身が「使いやすい方」を「使う」のが「審議の充実につながる」とみられる中で、方向性を整理



<答申に向けた検討の方向性 (案) >

- ◎ ペーパーレス委員会の「本格実施」は、前年度答申のとおり、令和5年度(改選後)を目安とする。
- ◎ それまでの間は、それぞれの議員の状況を踏まえ、ICTのメリットの浸透を丁寧に図りながらも、早期に活用したいという声にも応える試行的取組(以下「発展的試行」という。)を行い、「本格実施」につなげる。
- ◎ 上記の方向性を踏まえた上で、具体的な実施計画案(来年度のペーパーレス委員会の試行など)を作業部会で検討するときは、次の点に留意。
 - ① 令和3年度からの試行は、発展的試行のスタートとして、まずは、紙を使ってもよいし、使わなくてもよい(ペーパーレスで対応)という形で、取り組めるようにする。
 - ② ①による紙とペーパーレスとの併用については、次の点に留意する。
 - (1) 現時点では併用が必要としても、改選後の「本格実施」に向けた位置付け(例えば、下準備と位置付けるなど)を、今後のスケジュールとともに整理すること。
 - (2) 執行部のICT化の進展状況に応じた取組となっているかどうか、職員の事務負担がどうか等を踏まえた実施案とすること。